

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 06253004 A
(43) Date of publication of application: 09.09.1994

(51) Int. Cl. H04M 1/66
H04B 7/26, H04M 1/00

(21) Application number: 05040832
(22) Date of filing: 02.03.1993

(71) Applicant: MATSUSHITA ELECTRIC IND CO
LTD
(72) Inventor: YAMANAKA AKIO

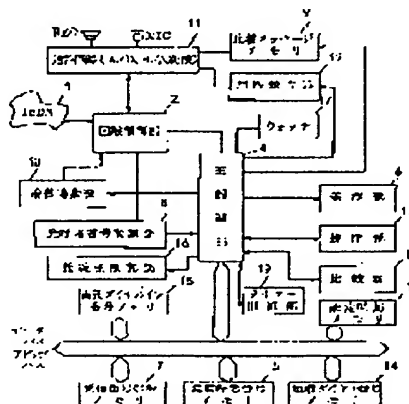
(54) CORDLESS AUTOMATIC ANSWERING TELEPHONE SYSTEM

COPYRIGHT: (C)1994 JPO&Japio

(57) Abstract:

PURPOSE: To transmit a rebuffing message to the call for sale or a prank call without going to a ringing mode at the time of recognizing the telephone number of a specific caller.

CONSTITUTION: A caller number being the telephone number of the caller is stored in a calling and incoming number memory 5 at the time of an incoming call, and compared with a registered number registered in a calling number registering memory 7 by a comparator 8. Then, when the number is matched, a response message memory 9 is operated without operating an incoming call ringing part 10. Thus, it is possible to directly receive the call for sale or a prank call by an automatic function without responding to it by a callee.



BEST AVAILABLE COPY

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(11)特許出願公開番号

特開平6-253004

(43)公開日 平成6年(1994)9月9日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 M 1/66	C	8838-5K		
H 0 4 B 7/26	1 0 9 H	7304-5K		
	L	7304-5K		
H 0 4 M 1/00	N	7117-5K		

審査請求 未請求 請求項の数 4 OL (全 8 頁)

(21)出願番号 特願平5-40832

(22)出願日 平成5年(1993)3月2日

(71)出題人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72) 發明者 山中 章生

神奈川縣横浜市港北区綱島東四丁目3番1
号 松下通信工業株式会社内

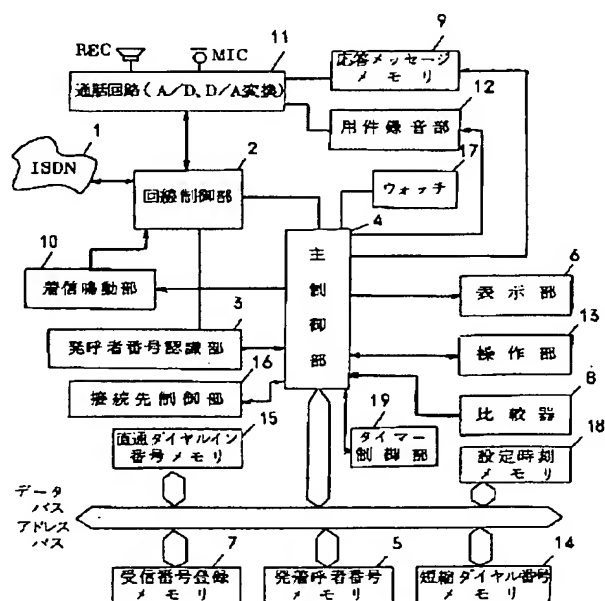
(74)代理人 弁理士 小鍛治 明 (外2名)

(54)【発明の名称】 コードレス留守番電話装置

(57)【要約】

【目的】 特定発呼者の電話番号が認識された場合には鳴動モードに移ることなく、勧誘やいたずらの電話に対して撃退のメッセージを送出することを目的とする。

【構成】 着信時に発呼者の電話番号である発呼者番号を発着呼番号メモリ5に記憶するとともに、比較器8で受信番号登録メモリ7に登録されている登録番号との比較を行う。そして、番号が一致する場合は着信鳴動部10を動作させることなく、応答メッセージメモリ9が動作する。これにより、勧誘やいたずらの電話を着呼者が応答することなく直接留守番機能で対応するように設定することができる。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 登録番号を記憶する第1のメモリと、発呼者から送られてきた発呼者番号を記憶する第2のメモリと、前記第1のメモリに記憶された登録番号と前記第2のメモリに記憶された発呼者番号とを比較する第1の比較手段と、前記第1の比較手段が前記登録番号及び発呼者番号の一致を検出した場合にメッセージを送出する送出手段とを備えたことを特徴とするコードレス留守番電話装置。

【請求項2】 前記発呼者から送られてきた発呼者番号を表示する表示手段と、表示された発呼者番号を前記第2のメモリから第1のメモリに移しかえることを特徴とする請求項1記載のコードレス留守番電話装置。

【請求項3】 特定の電話番号に指定する電話機の番号を付加した番号情報を記憶する第3のメモリと、前記第3のメモリに記憶された番号情報の電話番号と前記第2のメモリに記憶された発呼者番号とを比較する第2の比較手段と、前記第2の比較手段が前記番号情報の電話番号及び発呼者番号の一致を検出した場合に、指定された電話機を着信鳴動させる着信鳴動手段とを備えたことを特徴とする請求項1記載のコードレス留守番電話装置。

【請求項4】 所定の期間のみ前記第2の比較手段を作動させる手段を設けたことを特徴とする請求項3記載のコードレス留守番電話装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、第三者による勧誘、いたずらを目的とする電話の対策を講じるコードレス留守番電話機に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のコードレス留守番電話装置では、いたずら電話に対抗するため、着呼者がオフフックしてから、撃退ボタン等を押して撃退の旨のメッセージを送出するように構成されている。そして、いたずら電話を回避するために、発呼者が電話番号に暗証番号を付加して電話をかけたときに限り、特別の着信音で着呼者に知らせることによって、不必要な電話に出ないで済む方法である、いわゆる選択着信機能が採用されている。

【0003】また、例えば、深夜に電話をかける場合、特定の相手からの電話であろうと判っていても、すべての電話機が着信して着信リングが鳴ってしまうので、他の人にとってはなほだ迷惑となる場合があった。そこで、発呼者が予め決められた回数だけ呼び出した後、一度電話を切って、所定時間内に再度呼び出すと、選択着信モードになり、その後、発呼者が子機等の番号を入力すれば、指定された子機のみが呼び出されるように構成した。したがって、他の人の迷惑になることなく、しかも他の人に聞かれずに電話ができるので、プライベートな会話をする場合は大変便利である。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来のコードレス電話装置では、前述したようないたずら電話の撃退方法ではいたずら電話とそうでない電話との判断ができず、しつこくかかってくるいたずら電話に一旦は出なければならなかった。そして、従来の選択着信機能を使用する方法では、発呼者側で本来の電話番号の他に暗証番号を入力するという特別の操作を必要とし、発呼者にとって負担であった。

【0005】また、前述したような指定された子機のみ呼び出すという方法では、発呼者が一度電話を切るという作業や、子機番号を指定するという特別の手間がかかるという欠点があった。

【0006】本発明は、以上の上記問題を解決するために、発呼者が特別の操作をしなくても、着呼者側の電話機でいたずら電話のみを判別し、その撃退対策を講じるとともに、自動的に指定された電話機のみを呼び出すことのできるコードレス留守番電話装置を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は上記目的を達成するために、登録番号を記憶する第1のメモリと、発呼者から送られてきた発呼者番号を記憶する第2のメモリと、前記第1のメモリに記憶された登録番号と前記第2のメモリに記憶された発呼者番号とを比較する第1の比較手段と、前記第1の比較手段が前記登録番号及び発呼者番号の一致を検出した場合にメッセージを送出する送出手段とを備えたことを特徴とする。

【0008】

【作用】従って本発明によれば、通話時もしくは通話後に、一度、発呼者の電話番号を登録しておけば、勧誘やいたずら電話を着信鳴動を停止したままコードレス留守番電話装置が応対する様に設定できる。

【0009】また、勧誘やいたずら電話の電話番号を通話時もしくは通話後に自動的に登録されるので、設定番号を間違えることなく、かつ簡単な操作で行える。

【0010】さらに、深夜などの時刻の間は、予め登録されている電話番号(情報)を受信した場合、指定されている電話機だけを呼び出す様に設定することができる。

【0011】

【実施例】図1は本発明のコードレス留守番電話装置の親機について、以下に述べる第1～第4実施例に共通の構成を示したブロック図である。図1において、1はISDN網(総合サービスデジタル網)、2はISDN網1からの着信信号を受信する回線制御部、3は着信信号の内容を判別する発呼者番号認識部、4は発呼者番号認識部3から送出された識別信号を入力して所望の動作を行うと共に親機全体の制御をつかさどる主制御部、5は着信信号を発呼者番号として記憶する発着呼者番号メモリ(第2のメモリ)、6は主制御部4により発呼者電

話番号を表示する表示部、7は着呼者が予め受信の許可をしたい電話番号を登録する受信番号登録メモリ（第1のメモリ）、8は発着呼者番号メモリ5に記憶された発着呼者番号と受信番号登録メモリ7で登録された登録番号を比較する比較器、9は比較器8で電話番号が一致した場合に動作する応答メッセージメモリ、10は比較器8で電話番号が一致しなかった場合に動作する着信鳴動部、11はメッセージ等の音声信号を通過させる通話回路、12は通話回路11を介して受信したい発呼者のメッセージを録音する用件録音部、13は着呼者が受信番号登録メモリ7等に電話番号を登録するための手段としての操作部、14は発着呼者番号メモリ5の発着呼者番号を短縮番号として登録する短縮ダイヤル番号メモリ、15は電話番号に子機等の番号を付加して登録する直通ダイヤルイン番号メモリ（第3のメモリ）、16は比較器8で発着呼者番号メモリ5の発着呼者番号と直通ダイヤルイン番号メモリ15の電話番号が一致した場合に呼び出したい子機に接続する接続先制御部、17は時刻を計時するウオッチ、18は操作部13で設定した時刻を記憶する設定時刻メモリ、19はウオッチ17の時刻と設定時刻メモリ18の時刻が一致した場合に所定の動作を行うタイマー制御部である。

【0012】次に第1の実施例の動作について説明する。図2は、いたずら電話等の電話番号を判別する手順を示したものである。

【0013】図1および図2において、ISDN網1から着信があると、着信番号が回線制御部2に到来する。その後、発着呼者番号認識部3で着信番号を識別して、識別信号を主制御部4に送出する。着信時に発呼者から送られてきた電話番号は、発着呼者番号メモリ5に発着呼者番号として記憶され、表示部6に表示される（ステップ1）。

【0014】一度、発着呼者番号メモリ5に記憶された発着呼者番号と受信番号登録メモリ7に記憶されている登録番号を比較器8で照合し（ステップ2）、電話番号が一致した場合は、主制御部4は着信鳴動部10を起動させずに直接応答メッセージメモリ9を動作させ、発呼者に応じて勧誘やいたずら電話の拒否あるいは不在である旨等の応答メッセージを通話回路11を介して伝送し（ステップ3）、用件録音部12を起動し、発呼者のメッセージが録音される（ステップ4）。電話番号が一致しなかった場合には、通常の電話機の動作を行い、主制御部4が着信鳴動部10に着信リングを発生させる（ステップ5）。

【0015】これにより、勧誘やいたずらの電話を着呼者が応答することなく直接留守番電話が応対するように設定することができる。なお、上記実施例では表示部6に発呼者の電話番号のみ表示させるようにしたが、これと併せて発呼者氏名等を表示させてもかまわない。

【0016】次に第2の実施例の動作について説明す

る。図3は、いたずら電話等の電話番号を登録する手順を示したものである。

【0017】図1および図3において、勧誘やいたずら電話を防止するための受信番号登録メモリ7への書き込みは、操作部13で電話番号を登録する一般的な方法がある。

【0018】本実施例では、同図において、発着呼者番号メモリ5に発呼者電話番号を記憶（ステップ1）後、その書き込まれている発呼者電話番号を操作部13で受信者番号登録キーを押し（ステップ6）、その発呼者電話番号を受信者番号登録メモリ7に書き込む（ステップ7）。また、発着呼者番号メモリ5の発着呼者番号は、次に発着呼を行うまで保持されるので、通話中もしくは通話後でも登録操作が可能である。

【0019】図4は、上記発着呼者番号を短縮登録する手順を示したものである。図1および図4において、発呼者から送られてきた発着呼者番号を発着呼者番号メモリ5に記憶する（ステップ1）。短縮ダイヤル番号メモリ14への書き込みは通常の電話番号登録の場合と同様で、発着呼者番号メモリ5の発着呼者番号を操作部13の短縮ダイヤル登録キーを押し（ステップ8）、短縮ダイヤル番号を設定して（ステップ9）、短縮ダイヤル番号メモリ14への書き込みを行う（ステップ10）。

【0020】従って、発着呼者番号メモリ5が発着呼者番号を記憶することにより、わざわざ操作部13で電話番号を入力して短縮ダイヤル番号を設定することなく、通話中もしくは通話終了後に自動的に短縮ダイヤル番号メモリに記憶することができる。

【0021】次に第3の実施例の動作について説明する。図5は、特定の子機のみを呼び出す手順を示したものである。

【0022】図1および図5において、発着呼者番号を発着呼者番号メモリ5に記憶し（ステップ1）、発着呼者番号メモリ5と直通ダイヤルイン番号メモリ15との電話番号をそれぞれ比較器8で照合し（ステップ11）、一致した場合は、接続先制御部16でいずれの電話機を呼び出すかの制御を行い（ステップ12）、主制御部4を介して着信鳴動動作を行う（ステップ13）。電話機子機を呼び出す場合は、無線制御部（図示せず）を介して、子機に着呼メッセージを送る。番号が一致しなかった場合は、通常の一斉呼び出しを行う（ステップ14）。

【0023】図6は、上記直通ダイヤルインを行うために、子機等の番号を登録する手順を示したものである。図1および図6において、発着呼者番号を発着呼者番号メモリ5に記憶し（ステップ1）、操作部13で直通番号登録キーを押し（ステップ15）、発着呼者番号メモリ5の電話番号を直通ダイヤル番号メモリ15に書き込み（ステップ16）、接続先の電話機の番号を入力すると登録される（ステップ17）。

【0024】従って、直接ダイヤルインできる電話番号をあらかじめ設定しておく、自動的に設定した電話機だけを呼び出すことができる。

【0025】次に第4の実施例の動作について説明する。図7は、第3の実施例の動作について夜間の間だけ動作させるように設定する手順を示したものである。

【0026】図1および図7において、発呼者番号を発着呼者番号メモリ5に記憶し（ステップ1）、操作部13で設定された時刻が設定時刻メモリ18に記憶され（ステップ18）、ウオッチ17と時刻の照合を行い（ステップ19）設定時刻と一致した場合、タイマー制御部19で直通ダイヤルイン機能のオン／オフを制御する（ステップ20）。

【0027】これにより、着呼者は必要に応じて直通ダイヤルインを実行できるので、利便性が高い。

【0028】

【発明の効果】本発明は上記実施例より明らかなように、発呼者からの電話番号である発呼者番号を1つのメモリに記憶しておき、特定の発呼者の番号であればそれを他のメモリに登録することで、特定の発呼者を正確かつ簡単な操作で認識できる。また、特定発呼者を認識して、いたずら電話対策や直通ダイヤルイン機能の鳴動動作を制御したまま行うことができるという効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例におけるコードレス留守番電話機の親機のブロック図

【図2】本発明の第1の実施例におけるいたずら電話等の電話番号を判別する手順を示すフローチャート

【図3】本発明の第2の実施例におけるいたずら電話等の電話番号を登録する手順を示すフローチャート

【図4】本発明の第2の実施例におけるいたずら電話等の電話番号を短縮登録する手順を示すフローチャート

【図5】本発明の第3の実施例における特定の子機のみを呼び出す手順を示すフローチャート

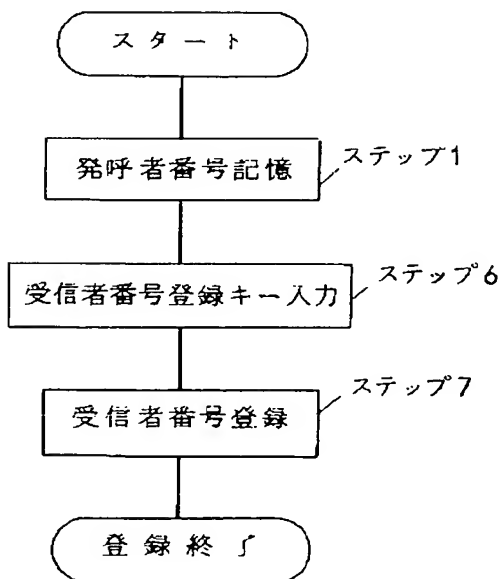
【図6】本発明の第3の実施例における直通ダイヤルインする際に子機等の番号を登録する手順を示すフローチャート

【図7】本発明の第3の実施例の動作について夜間の間だけ動作させるように設定する手順を示すフローチャート

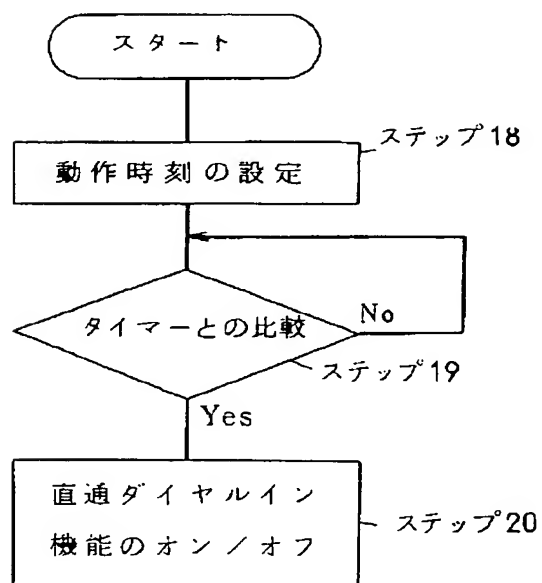
【符号の説明】

- 3 発着呼者番号認識部
- 4 主制御部
- 5 発着呼者番号メモリ（第2のメモリ）
- 6 表示部
- 7 受信番号登録メモリ（第1のメモリ）
- 8 比較器
- 9 応答メッセージメモリ
- 10 着信鳴動部
- 15 直通ダイヤルイン番号メモリ（第3のメモリ）
- 16 接続先制御部
- 19 タイマー制御部

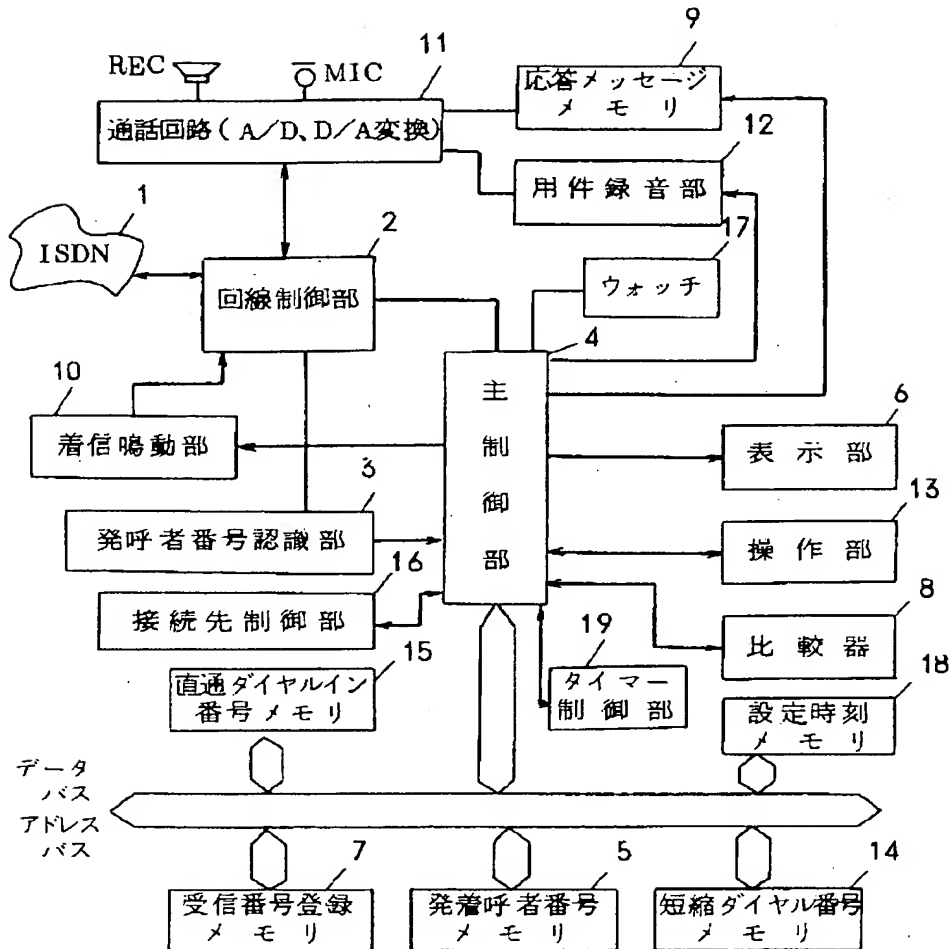
【図3】



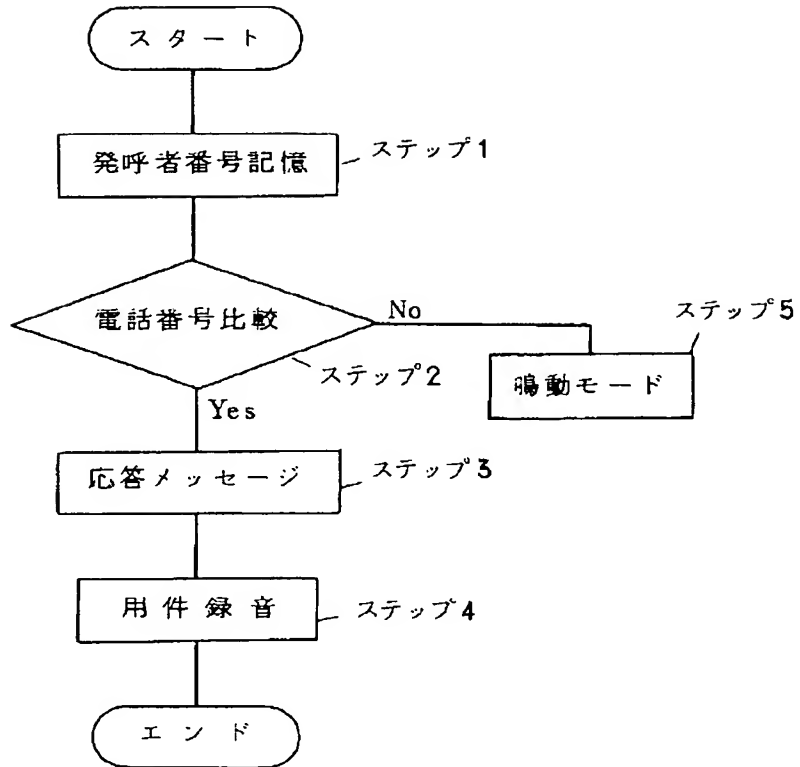
【図7】



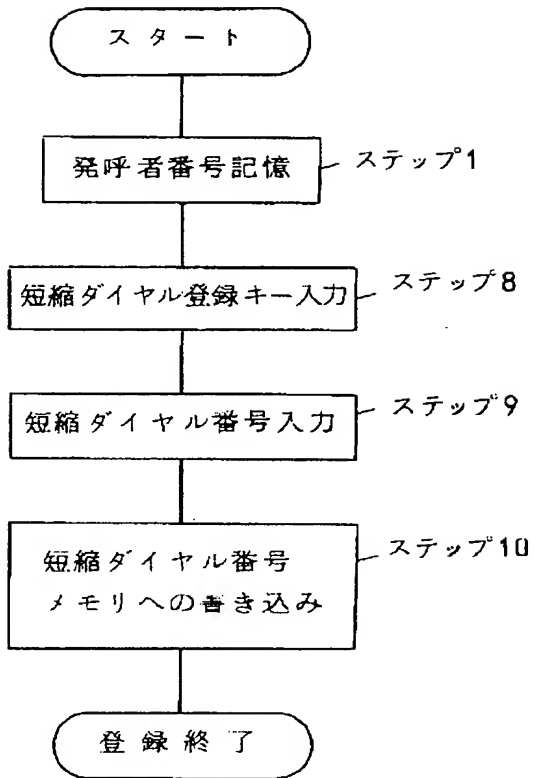
【図1】



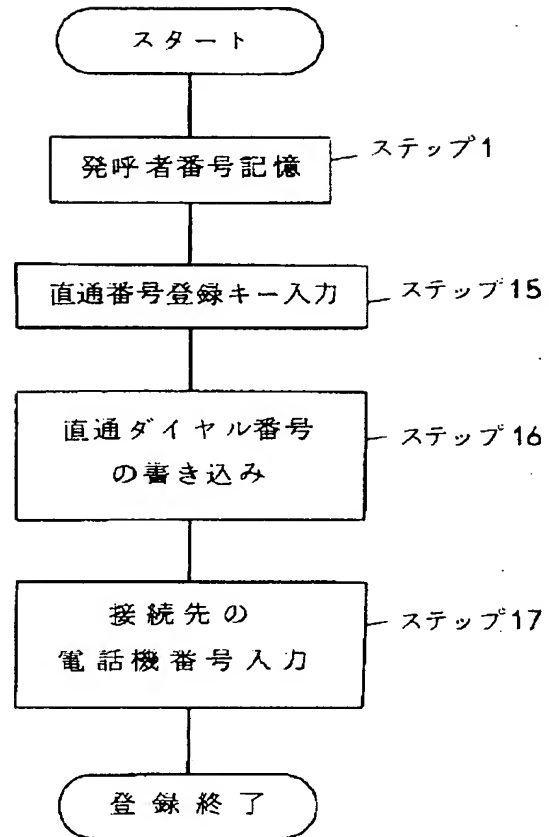
【図2】



【図4】



【図6】



【図5】

